

JACLaP WIRE No.76 (2004年11月5日発刊)

本メールは日本臨床検査専門医会の電子メール新聞 JACLaP WIRE No.76 です。

===== 目次 =====

【お知らせ-1】

会員動向(2004年11月2日現在数 681名, 専門医 492名)

【お知らせ-2】

事務局からのお知らせ

【お知らせ-3】(仮称)臨床検査振興協議会・第1回設立準備委員会について

【WHO トピックス】

【1】食物由来疾患の発生を減少させるためのWHOによる5つの戦略

<Press October 2004 WHO-178>

【MTJ (The Medical & Test Journal) 10月1日号から】

【MTJ (The Medical & Test Journal) 10月11日号から】

【MTJ (The Medical & Test Journal) 10月21日号から】

===== JACLaP WIRE =====

【お知らせ-1】

会員動向(2004年11月2日現在数 681名, 専門医 492名)

===== JACLaP WIRE =====

【お知らせ-2】事務局からのお知らせ

【所属・その他変更】

小柴賢洋 先生: 旧 神戸大学大学院医学系研究科生体情報講座

新 神戸大学大学院医学系研究科

立証検査医学寄附講座

小谷富男 先生: 旧 宮崎大学医学部附属病院検査部

新 医療法人芳越会 ホウエツ病院

【退会会員】

太田圭治 先生: エスアールエル山形ラボラトリー

野崎士郎 先生: 愛媛労災病院

【事務局設置について】

本会も会員数の増加に伴い、事務作業量が増加しています。また、庶務・会計監事が交代する毎に事務局の場所が変わることなく事務作業の継続性を持たせるため今回の総会で事務局を新たに設置することが承認されました。

それに伴い、事務局に適切な賃貸物件を捜し、東京都千代田区のお茶ノ水駅前の物件の契約を済ませました。新事務局への事務の全面移転は準備が整ってから行います。

【会費納入について】

本年度も10ヶ月が経過しました。会費未納の会員は会費の納入をお願いします。会費の支払い状況の確認は事務局までE-mail、FAXでお訊ねください。

【住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について】

最近、住所・所属の変更にもなって定期刊行物、JACLaP WIREなど電子メールの連絡が付かなくなる会員が多くなっています。

住所、所属の変更時およびE-mail adressの変更がありましたら必ず事務局までお知らせください。

所属、住所変更時は、できればホームページから会員登録票をダウンロードしてそれに記載しFAXあるいはE-mailでお願いいたします。

===== JACLaP WIRE =====

【お知らせ-3】(仮称)臨床検査振興協議会・第1回設立準備委員会について

平成16年10月20日(水)に、(仮称)臨床検査振興協議会・第1回設立準備委員会が開催されました。本会は、(仮称)臨床検査振興協議会の目的・事業・予算・定款・運営・組織等の詳細を協議(2~3ヶ月以内・4~5回会議)し、臨床検査関連6団体より成る主要団体合同会議に対して答申を行うこと要請されております。第1回の委員会では、会議Agendaのうち「目的」「事業」の2点につき討議が行われ、成文を得ました。

<目的>

本会は、国民および行政、医療関係機関等に、広く臨床検査の重要性の理解を求め、その適正な活用を促進し、国民の健康に貢献することを目的とする。

<事業>

本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

1. 臨床検査の重要性・有用性を国民および医療関係機関に、一層理解してもらうための広報活動。
2. 社会保険診療報酬等、医療関係制度における臨床検査の評価を向上させ、適正な活用を促進するための行政および医療関係機関への活動。
3. 疾病の診断、治療および予防に必要な「臨床検査ガイドライン」作成と、その普及・促進のための活動。
4. その他、本会の目的を達成するために必要と判断される諸活動。

(獨協医科大学越谷病院臨床検査部 谷 直人)

===== JACLaP WIRE =====

【WHO トピックス-1】食物由来疾患の発生を減少させるためのWHOによる5つの戦略
<Press October 2004 WHO-178>

毎年、不衛生な食物や食事によって、世界中で少なくとも20億人が病気になっている。食物由来疾患を減少させ予防するために、簡単で効果的な戦略をWHOが考えた。この5つの戦略は食物や食事を準備する際に、家庭や職場のどこでも実施できる。その戦略は1) ヒトの手と調理する食物の表面を清潔にする 2) なまの食物と火を通して料理した食物を分離する 3) 十分に熱を通して料理する 4) 安全な温度で食物を貯蔵する 5) 清潔な水・生ものを使用することなどである。この5つの戦略をアルゼンチン、ボリビア、ガイアナ、ハイチ、ホンジュラス、ニカラグア、バングラデシュ、ブータン、インド、インドネシア、モルディブ、ネパール、チモールなどで、食物由来疾患の発生を減少させることを目的で実験している。マニュアルは25か国語に翻訳されている。

(獨協医科大学越谷病院臨床検査部 森 三樹雄)

===== JACLaP WIRE =====

【MTJ (The Medical & Test Journal) 10月1日号から】

国病機構本部近畿ブロック事務所 検体検査の効率的運営を推奨

4月の国立病院・療養所の独立行政法人化から半年を経過し、近畿圏の独立行政法人国立病院機構(以下・国病機構)病院の約半数の施設では、検体検査の効率的運用の検討に入っている。これは、独立行政法人国立病院機構本部近畿ブロック事務所が本紙の取材に明らかにしたもので、検体検査の効率的運営は、近畿ブロック事務所が3月の近畿厚生局当時から検討を呼びかけていたもので、「(限られた人員数のなかで)生理検査など患者の顔が見える検査領域の拡充を図ってほしい」との判断を示した。

臨薬協理事会 機器リースシステム販売契約は法令順守を促進

日本臨床検査薬協会は9月24日、静岡県で通常理事会を開き、「機器リースシステム販売に関わる契約の基準」に関する法令順守への理解を促進させることを確認した。理事会後、河村俊郎氏、野儀英宣氏の両副会長が取材に応え、10月中旬までに「機器リースシステム販売に関する“勉強会”」を開催する方針を示し、希望があれば会員メーカーだけでなく医療機関関係者の参加も認める考えを表明した。

「国立大学病院診療支援(技術)部長・副部長会議」10月に初会合

国立大学病院の診療支援部が設立され1年を経過したことをうけ、10月末にはじめての国立大学病院診療支援(技術)部長・副部長会議が開かれることが明らかになった。昨年10月の国立大学医学部附属病院および歯学部附属病院の統合は、9つの国立

大学病院が実施。そのうち7つの国立大学病院（北海道大学、新潟大学、岡山大学、広島大学、徳島大学、九州大学、鹿児島大学）が診療支援部を設置した。ことし4月には、東北大学病院が追随し、10月1日時点で8つの国立大学病院に誕生したことになる。

「診療情報管理士指導者」の認定事業を来年度開始

日本診療録管理学会（大井利夫理事長・上都賀総合病院名誉院長）は、来年度から新たに「診療情報管理士指導者」の資格認定事業をスタートさせることを決めた。

【MTJ（The Medical & Test Journal）10月11日号から】

九州大学病院医療技術部 院内分散された臨床検査技師を一元統合へ

九州大学病院の医療技術部は、来年1月までに、検査部、診療科、中央診療部門に分散配置されている臨床検査技師を臨床検査部門に管理統合する方針を決めた。同院医療技術部の新開英秀部長が本紙の取材で明らかにした。今後、臨床検査部門の組織的見直しを進め、労働基準法に基づく完全夜勤2交代制を円滑に具体化していく考えだ。

「診断群別臨床検査ガイドライン 2005」 保険適用外検査も記載へ

日本臨床検査医学会包括医療検討委員会の川合陽子委員長（慶応義塾大学病院中央臨床検査部）は、検討を進めている「診断群別臨床検査ガイドライン 2005」に、現在、保険適用外であっても当該診断に必要と考えられる検査は記載していく方針を明らかにした。これは、9月29日から3日間、横浜市で開かれた日本臨床検査自動化学会第36回大会のシンポジウムで発表したもの。

小島三郎記念文化賞に山口東邦大学教授が受賞

黒住医学研究振興財団はこのほど、2004年度第40回小島三郎記念文化賞受賞者に東邦大学医学部微生物学講座の山口恵三教授、さらに第12回研究助成金贈呈者13名を決定したと発表した。研究助成金の総額1000万円。

健康食品管理士認定協会 認定試験のための研修会開く

健康食品管理士認定協会（理事長＝長村洋一・藤田保健衛生大学教授）は、健康食品管理士の認定試験のための研修会を10月2、3の両日、東京・湯島の東京医科歯科大学で開いた。研修会は、臨床検査技師などが対象で、健康食品分野における高度の

知識と技術を有する健康食品管理士を育成し、国民の健康に寄与することが目的。

【M T J (The Medical & Test Journal) 10月21日号から】

東北5県で「臨床検査クオリティーズ研究会」設立

病院臨床検査部のあり方が多様化するなかで、“検査マネジメント”を議論・検討する動きが活発化している。10月23日には、東北地区5県（青森、岩手、宮城、山形、福島）の臨床検査技師およびメーカー関係者が8月末に設立した「臨床検査クオリティーズ研究会」が、初会合を開く計画だ。

東京厚生年金病院 来春、FMS方式から病院独自運営方式へ

厚生年金事業新興団の東京厚生年金病院（516床、平均在院日数14日）中央検査室は、5年前に導入したFMS方式を来春から病院独自運営方式に戻す方針を決めた。同中央検査室の米久保功技師長は、FMS方式の契約更新を断念した大きな要因としてFMSの経済的メリットが損なわれた点が大きいとした。

臨薬協・勉強会 検査薬業界のコンプライアンスの重要性を再確認

日本臨床検査薬協会は10月14日、都内で機器リースシステム販売契約の法令順守の徹底を目的にした勉強会を開いた。69社が参加した。野儀英宣副会長（三菱化学ヤマトロン）は「改訂臨床検査薬プロモーションガイドラインの第5項（医療機関等と臨床検査機器の取引を行う時の留意点）については、メーカー間で認識に温度差がみられた。これは検査薬業界として重要な問題であり、コンプライアンスの構築は極めて大事だ」との認識を示し、今後も同勉強会を継続的に開催していく考えを表明した。

神戸大学 寄附講座「立証検査医学講座（シスメックス）」を開設

国立大学法人神戸大学大学院医学系研究科に10月1日付けで寄附講座「立証検査医学講座（シスメックス）」が開設された。10月15日、神戸大学医学部附属病院内で記念式典が開かれた。

=====

JACLaP WIRE, No.76 (2004年11月5日発刊)

発行：日本臨床検査専門医会 [情報・出版委員会]

編集：JACLaP WIRE 編集室 編集主幹：満田年宏

記事・購読(配信)・広告等に関するお問い合わせ先：

E-mail : uys-com@umin.ac.jp

TEL:045-787-2721 FAX:045-786-0392

日本臨床検査専門医会ホームページ : <http://www.jaclap.org/>

JACLaP WIRE バックナンバー : <http://www.jaclap.org/wire/index.html#TOP>

会員の皆様からの寄稿をお待ちしております！

メーリングリスト配信先の変更には

氏名, 2.現行登録アドレスと3.変更希望メールアドレスを添えて

uys-com@umin.ac.jpまで「配信先の変更希望」としてお送り下さい。
